

宮城県美術館リニューアルオープン



THE MIYAGI MUSEUM OF ART GRAND RE-OPENING JOURNEY THROUGH THE MUSEUM COLLECTION OF FINE ART

全館コレクションで魅せます 美術の時代

2026 **6.20** [土] - **8.23** [日]

会期中展示替えあり
前期: 6月20日(土)~7月12日(日) ※カンディンスキーの作品は前期のみ、特別出品の作品は後期のみの展示となります。その他、展示替えする作品があります。
後期: 7月15日(水)~8月23日(日)

開館時間: 午前9時30分~午後5時(発券は午後4時30分まで) 休館日: 月曜日(7月20日(月・祝)は開館)、7月14日(火)、7月21日(火)

観覧料: 一般700(560)円、学生、高校生以下無料 ()内は20名以上の団体料金

主催: 宮城県美術館、河北新報社 後援: 仙台市教育委員会、NHK仙台放送局、tbc東北放送、仙台放送、ミヤギテレビ、kbb東日本放送、エフエム仙台

宮城県美術館 The Miyagi Museum of Art
〒980-0861 仙台市青葉区川内元支倉34-1 TEL. 022-221-2111
HP <https://www.pref.miyagi.jp/site/mmoa/> https://x.com/miyagi_bijutu



左上から時計回りに: 尾竹竹坡(月の調い・太陽の熱・星の冷え)1920年、松本竣介(画家の像)1941年、ヴァジリー・カンディンスキー(「E.R.キャンベルのための壁画No.4」の習作(カーニバル・冬))1914年 ※前期のみ展示、高橋由一(宮城県庁門前園)1881年 いずれも当館蔵



【~1920年代: 明治・大正から昭和へ】より

フォーカス “高橋由一” (後期)



高橋由一《宮城県庁門前園》1881年

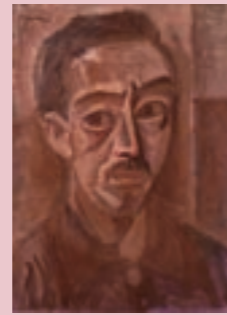


【特別出品】高橋由一《山形市街園》1881-82年頃 山形県所蔵 ※後期のみ展示

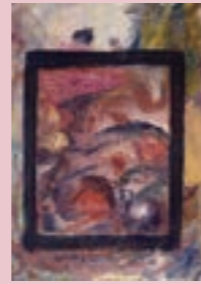


【特別出品】高橋由一《鮭図》1878年頃 山形美術館寄託 ※後期のみ展示

フォーカス “萬鉄五郎” (後期)



萬鉄五郎《自画像》1915年 洲之内コレクション



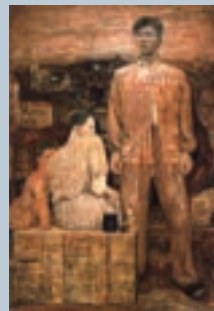
【特別出品】萬鉄五郎《心象風景》1912-13年頃 萬鉄五郎記念美術館所蔵 ※後期のみ展示



【特別出品】萬鉄五郎《かなきり声の風景》1918年 山形美術館寄託 ※後期のみ展示

【1930~40年代: 昭和初期、戦中戦後】より

フォーカス “松本竣介” (後期)



松本竣介《画家の像》1941年



【特別出品】松本竣介《立てる像》1942年 神奈川県立近代美術館所蔵 ※後期のみ展示

【1950~60年代: 高度経済成長期へ】より

フォーカス “佐藤忠良と舟越保武” (後期)



佐藤忠良《群馬の人》1952年



【特別出品】舟越保武《LOLA》1980年 岩手県立美術館所蔵 ※後期のみ展示

【関連事業】

●講演会

「連帯する芸術家たち— 両大戦間期をみつめる宮城県美術館のドイツ美術コレクション」

講師 後藤文子氏(慶應義塾大学教授)
日時 6月27日(土)午後2時~
(90分程度、午後1時30分開場)
会場 佐藤忠良記念館地階アート・ホール
定員 100名 当日先着順(聴講無料)

●トーク・イベント

「生きている画家 松本竣介の《画家の像》と《立てる像》を語る」

登壇者 松本莞氏(松本竣介ご子息、建築家)、
長門佐季氏(神奈川県立近代美術館長)
聞き手 加野恵子(当館学芸員)
日時 8月2日(日)午後2時~
(60~90分程度、午後1時30分開場)
会場 佐藤忠良記念館地階アート・ホール
定員 100名 当日先着順(聴講無料)

●「見える収蔵庫体験」

「見える収蔵庫」の中で、学芸員から作品の保存などの話を聞きます。
日時 ①7月11日(土)午前11時~、②8月9日(日)午前11時~
会場 見える収蔵庫
定員 各回8人(要事前申込、抽選)
詳細および参加申込フォームは当館ウェブサイトをご覧ください。(受付期間 ①6月1日~6月10日 ②7月1日~7月10日)。※「見える収蔵庫」はデリケートな作品を守るための場所です。中も非常に狭いため、注意点や条件等がございます。なお本イベントは、展覧会期終了後も不定期で開催する予定です。

●わいわい鑑賞日

7月5日(日)、8月1日(土)
特にこの2日間は、普段の鑑賞マナーはそのままに、展示室内での会話を楽しみながら作品鑑賞をしていただきたい日としてご案内します。お子様連れの方も、ぜひこの機会に美術館をお楽しみください(当館ウェブサイトの利用案内「お子様連れの方へ」をご一読ください)。当日は、子どもたちのためのプログラム「ミュージアム探検—キッズ・アワード」も開催します。

●キッズスタジオ・プログラム

「ミュージアム探検—キッズ・アワード」
日時 ①7月5日(日)、②8月1日(土)いずれも午前10時~正午
定員 対象 小学4年生以上中学生まで 各回15人(要事前申込、抽選)
詳細および参加申込フォームは当館ウェブサイトをご覧ください。(受付期間 ①6月1日~6月10日 ②7月1日~7月10日)。

●「学芸員によるギャラリートーク・リレー」

いずれの回も、観覧券をお持ちの上、本館エントランスホールにお集まりください。

【~1920年代: 明治・大正から昭和へ】

6月28日(日)午後2時~、7月19日(日)午後2時~

【1930~40年代: 昭和初期、戦中戦後】

7月4日(土)午後2時~、7月25日(土)午前11時~

【1950~60年代: 高度経済成長期へ】

7月25日(土)午後2時~

【1970年代~: 宮城県美術館開館前夜~現代】

8月9日(日)午後2時~

【「見える収蔵庫」で見る美術館の収集・保存活動】&

【はじめての美術 絵本原画コレクション】

7月11日(土)午後2時~

【佐藤忠良の世界】

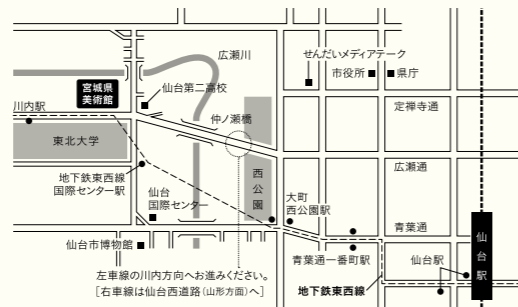
8月22日(土)午後2時~

【美術館の建築と彫刻】

8月22日(土)午前11時~

交通案内

- 仙台市地下鉄利用の場合 / 東西線国際センター駅西1出口から右(北)へ徒歩7分、もしくは川内駅北1出口から右(東)へ徒歩7分
- 仙台市営バス利用の場合 / 仙台駅西口バスプール9番乗場より730系統もしくは739系統に乗車、「二高・宮城県美術館前」下車、徒歩3分
- るーぶる仙台バス利用の場合 / 「国際センター駅・宮城県美術館前」下車、徒歩3分
- タクシー利用の場合 / 仙台駅から約10分
- 高速道路利用の場合 / 東北自動車道・仙台宮城I.C.より仙台市街方面(仙台西道路)に入り、仙台城跡方面を経由して美術館へ。仙台宮城I.C.より約15分



●次回特別展

カンディンスキー
世界は鳴りひびく
—日本のコレクションでたどる
画業と反響—

2026年9月12日(土)~
10月28日(水)

宮城県美術館 The Miyagi Museum of Art

〒980-0861 仙台市青葉区川内元支倉34-1 TEL. 022-221-2111

HP <https://www.pref.miyagi.jp/site/mmoa/>

https://x.com/miyagi_bijutu



[リピーター割引] 本展観覧済みのチケットを当館受付に提示いただくと、「美術の時代」展を当日料金から100円引きで観覧できます。他の割引との併用はできません。

全館コレクションで魅せます 美術の時代

宮城県美術館は今年、開館45周年を迎えます。開館当初、約700点だったコレクション(所蔵品)は、現在では約7,000点となりました。日本美術では、地域の美術に目を向けながら、それらを近現代美術の歴史の中で捉え直せるよう、宮城・東北ゆかりの作家の作品、ならびに日本の近現代美術史の指標となる作家の作品を収集しており、海外美術では、抽象絵画の先駆者であるカンディンスキーやクレーをはじめ、ドイツ表現主義を中心とした作品を収集しています。ドイツ表現主義は日本の近代美術にも重要な影響を与えており、当館のコレクションは地域から世界へとつながる広がりをもって形成されてきました。

明治時代、ウィーン万国博覧会への出品を契機に「美術」という日本語が誕生しました。当館のコレクションは明治以後、すなわち「美術」の時代の作品を対象としています。近代化やグローバル化により世界が目まぐるしく変化するなか、人々は美術の力に魅了され、多様な美術表現を生み出してきました。本展覧会では、選りすぐりのコレクションを全館で展示し、時代とともに変化する近現代美術のダイナミズムとその醍醐味をご紹介します。

会期中は一部展示替えを行い、後期からは特別出品も加え、日本近代美術コレクションの鍵となる作家に焦点を当てて深掘りするコーナーも設けます。新しくなった美術館で、コレクションとの懐かしい再会と、新たな魅力との出会いを、どうぞ心ゆくまでお楽しみください。

展示室
1

～1920年代： 明治・大正から昭和へ



安田鞆彦《花の酔》1912年頃



アルフォンス・ミュシャ
《ロレンザッチョ》1896年 三浦コレクション

●出品作家

高橋由一、小山正太郎、渡辺亮輔、中村彝、萬鉄五郎、岸田劉生、梅原龍三郎、前田寛治、中野和高、東郷青児、平福百穂、尾竹竹坡、安田鞆彦、竹久夢二、ロートレック、ミュシャ、カンディンスキー、クレー、ルオー、ピカソ、シーレ ほか

展示室
3

1950～60年代： 高度経済成長期へ



鶴岡政男
《人間気化》1953年



芹沢銈介《木綿地型絵染二曲屏風「春夏秋冬」》1965年

●出品作家

難波田龍起、鶴岡政男、小磯良平、長谷川濤二郎、麻生三郎、桂ユキ、宮城輝夫、曹良奎、白髪一雄、高松次郎、村上善男、小松均、芹沢銈介、佐藤忠良、昆野恒、堀文子、山脇百合子 ほか

THE MIYAGI MUSEUM OF ART GRAND RE-OPENING
JOURNEY THROUGH THE
MUSEUM COLLECTION OF FINE ART

展示室
2,3

1930～40年代： 昭和初期、戦中戦後



北川民次《メキシコ戦後の図》1938年



パウル・クレー
《パレシオ・ヌア》1933年

●出品作家

安井曾太郎、北川民次、三岸好太郎、大沼かねよ、長谷川利行、海老原喜之助、鬘光、杉村悳、松本竣介、佐藤忠良、高橋英吉、太田聰雨、カンディンスキー、クレー、ルオー ほか

展示室
4,6

1970年代～： 宮城県美術館開館前夜～現代



荘司福《風化の簾》1974年



野見山暁治《ぼくは信じない》2011年

●出品作家

吉原治良、山下菊二、野見山暁治、高山登、李禹煥、榎倉康二、菅野聖子、佐々木正芳、石川舜、佐藤一郎、小林正人、荘司福 ほか



見える収蔵庫

「見える収蔵庫」で見る
美術館の収集・保存活動

見える収蔵庫



展示室5

はじめての美術
絵本原画コレクション

中谷千代子《ジジョオのパンやさん》表紙・裏表紙原画
1975年



佐藤忠良記念館
展示室C1-C5

佐藤忠良の世界

佐藤忠良《ふざけっこ》1964年



全館、前庭、北庭、
アリスの庭

美術館の建築と
彫刻

左：ダニ・カラヴァン《マアヤン》1995年
右：ヘンリー・ムーア《スピンドル・ピース》1963-74年